令和５年８月 28 日
教育部学校教育課

令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の概要

(1)実 施 日　　令和５年４月 18 日(火)
(2)実 施 校　　市内小学校 22 校の６年生：1011 人
　　中学校　９校の３年生：1018 人
(3)実施科目　　小学校：国語、算数、児童質問紙
　　中学校：国語、数学、英語（「話すこと」は結果に含まない)、生徒質問紙

２　調査結果の公表

本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子どもたちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部分を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

３　調査結果の概要

小学校では、全国及び県との比較では、各教科ともに平均正答率をやや上回りました。

中学校では、全国との比較では、各教科ともに全国の平均正答率を１ポイント以上上回りました。また、県との比較においては、国語と英語は上回りましたが、数学はやや下回りました。

今後は、詳細な分析を行い掛川市全体の成果と課題について明らかにし、家庭向けリーフレットを公表したり、さらなる授業改善に努めたりする予定です。

４　市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】

小学校	国語	算数	
掛川市	**67.4%**	**62.7%**	
静岡県	67.0%	61.7%	
全国	67.2%	62.5%	
中学校	国語	数学	英語
掛川市	**71.5%**	**52.0%**	**47.1%**
静岡県	70.6%	52.3%	46.8%
全国	69.8%	51.0%	45.6%

【全国・県の平均正答率を 100 とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語	算数	
静岡県比較指標値	101	102	
全国比較指標値	**100**	**100**	
中学校	国語	数学	英語
静岡県比較指標値	101	99	101
全国比較指標値	**102**	**102**	**103**

５　全国と比較して正答率の高かった主な内容（〇）と低かった主な内容（▲）　※全国比

(1)　小学校国語

〇【資料１】と【資料２】に書かれている内容として適切なものを選択する。

〇資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。

○【文章２】の［　　］の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。
▲【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（いがい）
▲敬語の使い方をまとめたノートの空欄に入る内容として適切なものを選択する。

(2)　小学校算数
○全部の椅子の数を求めるために、50×40 を計算する。
○テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。
○二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ。
▲椅子４脚の重さが７kgであることを基に、48 脚の重さの求め方と答えを書く。
▲切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのＡの角の大きさを書く。
▲テープを直線で切ってできた２つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

(3)　中学校国語
○自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。
○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。（いひける）
○現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているのかについて、古典と比較して書く。
▲レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。
▲漢字を書く（おし量って）。

(4)　中学校数学
○女子 50m自由形の記録の、最小の階級から 29.00 秒以上 30.00 秒未満の階級までの累積度数を求める。
○はじめの数に書ける数が２、たす数が６ならば、計算結果はいつでも３の倍数になることの説明を完成する。
○はじめの数に書ける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも４の倍数になるかを説明する。
▲ｙがｘに反比例し、比例定数が３のとき、ｘの値とそれに対応するｙの値について、正しい記述を選ぶ。
▲「2006 年～2020 年の黄葉日は、1991 年～2005 年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。
▲二等辺三角形でない２つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの照明の中から成り立たなくなる式を書く。

(5)　中学校英語（話すことを除く）
○ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
○ある状況を描写する英文を読み､その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。
○ロボットについて書かれた英文を読み、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
▲与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。
▲学校生活（行事や部活）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。

６　掛川の子どもたちの特長（主なものを抜粋）

※４～５段階のうち、「当てはまる」と回答した割合

項　目	小学校			中学校		
	掛川市	全国	**比較**	**掛川市**	全国	**比較**
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている児童生徒の割合	**56.0%**	49.9%	**6.1%↑**	**48.1%**	40.0%	**8.1%↑**
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた児童生徒の割合	**37.4%**	33.4%	**4.0%↑**	**36.9%**	31.2%	**5.7%↑**
今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童生徒の割合	**44.8%**	24.3%	**20.5%↑**	**36.7%**	12.2%	**24.5%↑**
前の学年までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、ほぼ毎日使用したと答えた児童生徒の割合	**38.4%**	28.2%	**10.2%↑**	**60.8%**	28.1%	**32.7%↑**
学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた児童生徒の割合	**33.0%**	31.8%	**1.2%↑**	**40.1%**	29.3%	**10.8%↑**
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童生徒の割合	**44.5%**	44.3%	**0.2%↑**	**59.1%**	43.8%	**15.3%↑**

７　今年度中学校３年生の指標値の推移

令和２年度　小学６年　調査は中止

	国語	算数
静岡県		
全国		

令和５年度　中学３年の結果

	国語	**数学**
静岡県	**100**	**100**
全国	**102**	**102**

〇国語、数学ともに、全国・県と同等以上の学力を着実に身に付けています。

８　正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

＜小学校・中学校共通項目＞
・毎日同じ時刻に寝ている。
・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
・課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいる。
・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている。
・授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると感じている。
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
・算数・数学の勉強が好き。
・算数・数学の授業内容がよくわかる。
・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。
・英語の勉強が好き。

○これらの項目に肯定的に答えた子どもたちが、国語や算数・数学、英語（中学校のみ）すべての平均正答率が高い傾向にありました。

９　調査結果から

○積極的に１人１台端末を活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させられるよう授業改善が進められている。

「授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、ほぼ毎日使用した」と答える児童生徒の割合が、全国より高く、国語、算数・数学、英語が好きでその大切さや将来役に立つことを感じて肯定的回答をしている児童生徒が多いです。１人１台端末の活用が浸透し、各教科に対する興味・関心を高め、学ぶ意味や生活とのつながりを考えさせながら授業改善を進めている成果が表れてきていることが伺えます。

○肯定的な子ども観のもと、学校、家庭、地域が連携して、子どもを育てている。

「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える児童生徒の割合が、全国より20 ポイント以上高いです。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答える児童生徒の割合も、全国より高いです。「朝食を毎日食べている」や「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた割合も高く、地域、家庭、学校が、肯定的な子ども観のもと、主体的な子どもの学びを支えていることが伺えます。掛川ならではの『お茶の間宣言』や『中学校区学園化構想』をはじめとする、『市民総ぐるみの人づくり』が進められていることが、成果として現れていると考えられます。